

スウェーデン ～SDGs先進国の示唆～



スウェーデン第3の都市マルメにある世界海事大学に留学中の学生と（筆者：右端）

大塚 信太郎（おおつか しんたろう）

前・在スウェーデン日本国大使館書記官
国土交通省大臣官房総務課国会連絡室専門調査官

2000年北海道開発局入局。国土交通省北海道局、水管理・国土保全局及び総合政策局での勤務を経て、2018年3月から2021年3月まで在スウェーデン日本国大使館経済班に所属。日本へのインバウンドや日本食普及の促進等を担当。2021年7月から現職。

はじめに

突然ですが、みなさんはスウェーデンといえば何を思い浮かべるでしょうか？IKEAやH&Mといった世界的企業？「魔女の宅急便」のモデルとも言われるオシャレな街並み？もちろん、それらもスウェーデンの大切な一部ですが、近年SDGs達成度ランキングで常に上位に位置^{*1}する優等生国家であるということも忘れてはなりません。私は2018年3月から3年間、在スウェーデン日本国大使館に勤務しておりました。本稿では、スウェーデンでの私の経験を紹介するとともに、なぜ同国がSDGsにおいて世界をリードする存在になり得ているのかについても考察していきたいと思っています。

基本情報

まずは、スウェーデンの基本情報から始めましょう。スウェーデンには日本の約1.2倍の面積に日本の約12分の1の人々が暮らしています^{*2}。人口の大半が国土の南半分に住んでおり、ストックホルムの人口は約98万人^{*3}です。公用語はスウェーデン語ですが、ほとんどの方が流暢な英語を話します。

気候について、夏は通常涼しいのですが、私が赴任した2018年は欧州に熱波が到来し、連日気温が30度まで上がりました。一般的なオフィスや家庭にはエアコ



スウェーデンの位置図（外務省ホームページ）

* 1 2020年1位、2021年2位、2022年3位（出典）<https://www.sdgindex.org/reports/sustainable-development-report-2022/>
* 2 スウェーデンの面積は約45万㎡、人口は約1,044万人（2021年10月、スウェーデン統計庁）
* 3 スtockホルムの市人口は約98万人、都市圏人口は約239万人（2020年12月、スウェーデン統計庁）

ンがないため扇風機を買いに行きましたが、どこの家電量販店でも売り切れだったことを覚えています。冬は北欧のイメージどおり寒さが厳しいですが、道産子の私は特段辛いとは思いませんでした。ただ、冬は雨か曇りの日がずっと続き、日照時間も短く、朝7時半に起床するとまだ真っ暗、職場に向かう8時半くらいようやく日が昇り始め、正午になっても太陽の位置が低く夕方のような明るさで、15時過ぎにはもう日が沈んでいるといった具合です。1ヶ月間の日照時間がゼロ（2020年12月）ということもありました。私が赴任して初めて迎えた春の5月には、家の近くの普通の公園で水着を着て日光浴をする人たちがたくさんおり不思議な光景に見えましたが、一度冬を経験すると、天気の良い日には少しでも太陽の光を浴びたいという気持ちが理解できました。

イノベーションを通じた生産性・利便性の向上

(1) 生活の隅々まで浸透したデジタル化

さて、私がまず感じたスウェーデンのSDGs達成に向けた取組の一つが、イノベーションを通じた生産性・利便性の向上です。人口が少ない中で相当の経済規模を維持し、豊かな生活を守るためには労働力不足は大敵です。そのため、デジタル化やキャッシュレス化による徹底した効率化の試みが見られます。例えば、多くのスーパーマーケットでは、バーコードリーダーで商品をスキャンしながら買い物カゴに入れ、無人レジで



スーパーのバーコードリーダー

決済できます。支払いまですべて自己完結するこの仕組みにより、レジでの待ち時間は大幅に短縮されます。

また、スウェーデンは完全なるキャッシュレス社会です。在任中3年間一度も街中で現金を使用しなかったほどです。現金お断りの

レストランも多いため、クレジットカードは必須です。田舎にある野菜直売所やストリートミュージシャンへの投げ銭さえもSwish（スウィッシュ）という送金アプリで行われています。北海道では平成30年の胆振東部地震の際、通信障害により電子決済が利用できなくなったことがありましたが、日本と比較すると災害が極端に少ない国だからこそ、ここま

でキャッシュレスが浸透できるのだと思います。

駐車料金の支払いもキャッシュレスです。スウェーデンでは路上駐車が一般的であり、夕方になるとアパート前では仁義なき駐車場所の争奪戦が繰り広げられます。少しでもスペースを見つけたら躊躇なく車を滑り込ませないと、すぐに近所の住人に取られてしまいます。おかげで高速で縦列駐車ができるようになりました。話が外れてしまいましたが、駐車後は市が提供する専用の駐車アプリで駐車時間を入力するだけで、登録したクレジットカードから駐車料金が徴収されます。駐車時間の変更も手元のアプリで楽々♪この点、従来のチケットによる徴収方式よりも圧倒的に便利です。

ただ、これでは支払いをしなくても駐車可能で、スーパーのバーコードスキャンと同様、簡単に不正ができてしまいますので、頻繁に抜き打ちチェックが行われています。不正が起これば罰金を大きくすることで、制度を正しく機能させようとする手法は、これ以外にも各所に見られます。こうしたシステム一つとっても、日本と多少異なる考え方が表れていることが分かります。



駐車料金支払いのアプリ画面

(2) パーソナルナンバーによる手続きの効率化

現在日本ではマイナンバーカードの普及に向けた様々な施策が行われていますが、スウェーデンでは1947年より、国民全員に産まれたときからパーソナルナンバーが付与されています。この番号により、銀行口座の開設、公共サービスの契約等、様々な手続きがワンストップかつペーパーレスで完了します。医療機関を受診した際も、処方箋は紙では渡されず、病院から薬局にデータで送られるため、番号を伝えるだけで薬が受け取れます。

個人番号は、始めの6桁が生年月日、残り4桁が固有番号で構成されているので、年齢がすぐにばれてしまうというデメリット(?)もあります。また、びっくりしたのは誰でも所定のサイトでこのナンバーを打ち込むと、氏名や住所まですぐに表示されることです(!)日本人の私からすればプライバシーが筒抜けなのは…と驚きましたが、手続きの効率性・迅速性を優先した結果のようにも思われ、ここにも合理主義を追求する姿勢の表れが感じられます。

社会課題の解決を支える叡智

(1) ノーベル賞

ノーベル賞は社会課題の解決を志す人々の^{えいち}叡智と努力に送られる最高の賞かと思います。その発祥の地であるスウェーデンでは、ノーベル賞は比較的身近なものに感じられています。物理学、化学、生理学・医学、文学、平和及び経済学の6分野のうち、平和賞以外の選定はすべてスウェーデンの機関であるノーベル委員



ノーベル賞授賞式前後にライトアップされたコンサートホール

会が行っています。授賞式はストックホルム市内のコンサートホール、式後の晩餐会^{さん}はストックホルム市庁舎にて行われ、授賞式の様子はスウェーデン国内で生中継されます。

市内のノーベル博物館は、多くの日本人観光客も訪れる観光スポットになっています。館内にあるカフェの椅子には受賞者の直筆サインが書かれており、来店客用として使われています。また、館内で販売されている、受賞メダルを模したチョコレートも人気のお土産の一つです。職場で配ることを想定してか、箱買いしていく日本人客をよく見かけました。ストックホルム市庁舎内のレストランでは、晩餐会で供されたディナーを食べることもできます。

日本人受賞者に対しては大使夫妻主催による祝賀レセプションを開催しており、私の任期中には、本庶佑京都大学特別教授(2018年医学・生理学賞)、吉野彰旭化成名誉フェロー(2019年化学賞)が受賞されました。政府機関、教育・研究機関、学術関係者等を招待した総勢約200人の盛大なレセプションの開催に、大使館を挙げて取り組みました。

(2) 水のノーベル賞

ストックホルムは14の小島からなる水に囲まれた街です。暖かい季節になると、川や湖でカヌーを漕いだり、ボートでアイランドホッピングを楽しむ市民の姿が見られます。ここにはもう一つのノーベル賞「水のノーベル賞」があります。

毎年8月下旬は世界水週間とされており、ストックホルム国際水協会の主催により水環境に関する各種会



水の都ストックホルム

議等が開催されます。その中でも「水のノーベル賞」のジュニア版「ストックホルム青少年水大賞」は、水に関する課題解決に資する調査研究を行う学生を対象としたコンテストです。これには40 か国以上から何千ものエントリーがありますが、日本からも国内選考を勝ち抜いた代表チームが20年ほど前より毎年参加しています。2020年は、青森県立名久井農業高等学校のチームが16年ぶりにグランプリを獲得しました。

ジェンダー平等の実現

スウェーデンは女性進出が著しく進んだ国です。私が業務上繋がり^{つな}のあった政府職員も管理職含め女性の方が非常に多かったです。政治の世界でも、閣僚の半数を女性が占めており、2021年にはマグダレーナ・アンデション氏が同国初の女性首相に就任したのは記憶に新しいところです。

こうした女性の社会進出を支えるのは、産休・育休といった制度的基盤とその活用を促す社会の風潮です。女性はもちろん、男性も相当期間の育休取得が当然視されています。実際、赴任直後に会った政府職員の男性から「せっかく知り合ったばかりだけど、実は来月から最低1年間は育休を取得する予定なんだ」と告げられてびっくりしたのを覚えています。私の職場でも、男性現地スタッフの育休取得にあたっては、休暇期間がかなり長期だったにも関わらず、それが当たり前という雰囲気です。淡々と手続きが進められました。

政府高官の話によれば、少ない人口で相当の経済規模を維持するためには、男性の労働力のみに依存するのではなく、女性の労働力も活用することが極めて合理的であるとのことでした。ジェンダー平等の背景にも、スウェーデンの合理性を追求する考え方が垣間見えます。

つくる責任、使う責任

ほとんどのスーパーには、写真のようなりサイクルマシンがあります。スウェーデンで市販のペットボトル・缶飲料には、一本あたり1～2クローナ^{*4}が初め

から上乗せされています。飲み終わった容器をリサイクルマシンに入れば、画面に上乗せ分の金額が表示され、赤十字に寄付するか返金するかを選択することができます。他にも、市内の公園等各地には、透明ガラス、着色ガラス、金属、プラスチック、古紙等のリサイクルボックスが設置され、いつでも分別して捨てることができます。

スウェーデンにおける2020年時点のリサイクル率は88.1%であり、年約18万トンものCO₂を削減しているとのことです^{*5}。これには、国民が無理なく自然にリサイクルに参加できるような工夫とインフラが大きく貢献していると考えられます。

日本との結びつき

ここまでスウェーデンのSDGsにおける先進的な事例を紹介してきましたが、最後に近年の日本との関わりについて見ていきたいと思います。

(1) 経済関係の強化

私の赴任した2018年は、日・スウェーデン外交関係樹立150周年という節目の年でした。同年4月、カール16世グスタフ国王が経済界とともに訪日したのをはじめ、日・スウェーデン両国の航空会社による仙台及び成田からストックホルムへの特別チャーター便の運航



リサイクルマシン



日本より送られた桜が満開を迎えた市内中心部の「王様公園」

*4 1クローナ＝約12.83円（2022年7月現在）

*5 （出典）<https://pantamera.nu/en/private-citizen/facts--statistics/about-the-deposit-system/>

と両国大使館による搭乗客の歓迎式典、能公演や和太鼓公演等、1年間を通じて様々な記念イベントが開催されました。

スウェーデンには製造業を中心に約130社もの日本企業が進出しています。また日本にも約150社のスウェーデン企業が進出しており、両国は密接な経済関係を有しているところです。150周年にあたり、経団連より、日本企業の幹部を中心とした30名強がスウェーデンを訪問し、国王、閣僚、経済界等と会談を行いました。私は訪問の受け入れ主担当となり、訪問数ヶ月前から日スウェーデン双方との調整を行いました。双方の経済団体トップクラスがお互いの国を訪問したこの年を契機に、両国の協力関係は一層強化されています。

(2) 拡大中の日本食市場

健康志向のスウェーデンでは近年日本食が人気です。大使館は、ジェトロの商談会を後援し、日本食料を現地のバイヤーに紹介するなど、日本食の普及に努めています。その一環として、コロナ禍では、大使館員による日本料理の調理動画を撮影し、インスタグラム^{*6}に投稿しました。お好み焼き、唐揚げ、オムライス、生姜焼き、ラーメン等を見て、スウェーデンの方々から「美味しそう!」「自分でも作ってみたい!」と、日本食に対するダイレクトな反応を得ることができました。



市内に多数ある日本食レストラン

なお、スウェーデンでは、アルコール度数が3.5%以上のお酒は、国営の酒屋「システム・ボラーゲット」でしか購入することができません。日曜日・祝日は休みのため、平日や土曜の閉店間際には酒を求める客による長蛇の列がよく見られます。規模の大きい店舗であれば日本酒や日本のビールを扱っています。大使館のレセプションでも日本酒は好評で、飲み方や食事との合わせ方等について質問をいただくなど、多くの現地の方が興味を持っていました。

終わりに

デジタル、ジェンダー平等、環境問題への対応等、SDGsの達成に向け先進的な取組で注目されるスウェーデン。社会課題の解決に向けた世界のリーダーたりうる背景には、スウェーデン国民の「合理的な思考」が見てとれました。人口が少ない中で豊かな経済を維持するこの国には、街中のシステム一つとっても、人々の幸福を支える様々な工夫に満ちています。遠い北欧の国から、日本が吸収できることも多いかもしれません。水の都での私の3年間が、少しでも両国の関係強化に資するものであったことを願っております。

* 6 www.instagram.com/japanska_ambassaden